

きっかけ

栗村 仁史

その1

むかし、むかし紅顔の美少年だったころ、小樽で窪井昭子さん（現田口）という人にムリヤリ誘惑されFD界に引き込まれた。例会に行ってみると美しいお姉さん達がたくさんおり、純情な私は足がすくんだものである。それでも、ハーモニカ・チャチャクコローなどを踊れるころには、手をにぎれる喜びとFDの面白さで少しづつ深みにはまっていった。

このきっかけを与えてくれた田口さんは、1年位前からカナル・エンジェルズでSDを踊り始めたと聞いています。近いうちに会えることを楽しみにしております。

その2

紅顔の美少年のまま小樽FD協会でFDに熱を上げていたころ、旭川ロッキン・ベアーズの創立者の一人である青木俊樹さんが、大学を卒業し人会してきました。当時、マリーナ、ウーマンインラブなどが踊られていたSDの中で、青木さんは、モダン・スクエアを例会の中に取り入れる様になりました。

動作の一つ一つがとても理解出来ず、FDとは異なった興味を覚え、だまされるままにスィンガーズHの合宿について行ったのが、SDを踊るきっかけとなりました。今も青木さんはFD界の中で名を連らねている様ですが・・・。

その3

紅顔の美少年が美男子へと変身するころ、スィンガーズHの例会へ小樽から通い始めました。ある日の例会に当時ラッキー・エイトの和田勝さんが、新婚旅行で立ち寄りコールをかけてくれました。そのコールの新鮮さと和田さん特有のコーリングが頭に残り、「よし！俺も」とコールを始めるきっかけとなりました。

その後しばらくは、和田さんのテープを聞き、和田さんの言いまわし等をまねたコールをした記憶があります。

さいごに



むかし、むかし窪井さんに会っていなかったら、そして青木さんが小樽にこなかったら、今ごろなにをやっているのでしょうか。

支部ニュースの原稿なんか書かなくても済むのに・・・。

おわり

95「ニューイヤーパーティーに出席して

スウィングーズH 笹森 禎子

初日の出はオホーツクの海から、スクエアのパーティーは北海道の東に位置する“サンライズ”から始まります。

1月14日の早朝、私は一人で札幌始発、特急オホーツク1号の窓辺の席に着きました。北の大地に新雪が舞い落ちる景色を見つめながら、その雪舞いに一つの情景を思い浮かべておりました。それは、お揃いの水色とオレンジの太陽のようなコスチュームを着て、花が咲くように踊っていらっしやった“サンライズ”の若さ溢れるダンサーの皆さんの笑顔です。

会場へは、いの一に着きました。時間の経過と共に、続々と各地から集まってくる仲間を迎えて会話がはずみ、2時の開会には既に3セットの踊りの輪ができ、ゲストのマックさんの到着の頃の会場には、百人近いダンサーが集まる盛大さでした。

次々代わるコーラさんのコールで、道東や道北のクラブの方々とは踊るのは、とても新鮮でパーティーの楽しさを実感しました。あい変わらずレベルを問わず、ダンサー全員を楽しませてくださる小島先生の素晴らしいコールに、疲れを忘れて酔いしれるのでした。

温泉で汗を流し疲れを癒してからの夜のコンパも、パーティーの楽しみの一つです。それはダンスタイムの時とはひと味違った、親睦の交流ができるからです。ほどよく酔ってマックさんの『カントリーウェスタン』に耳を傾けている中に、身も心も弾んでつい踊り始めていました。

温泉に憩い。マックさんのコールで多く仲間と出会う楽しい二日間でした。心に温かいぬくもりを造ってくださった“サンライズ”の皆様。本当にありがとうございました。終わりにひとこと

「サンライズ二世のおちびちゃん。また来年まで大きくなっていてね。」

